

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あけぼの苑	ユニット名	B棟
所在地	宮崎市田野町あけぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成25年12月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ixvoavocd=4571500471-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に添った理念創りに努め、全職員が理念に基づいた支援ができるように取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一回の紙芝居のボランティアの訪問又年1回の「夕涼み会」「敬老会」等を通して地域とつながりながら日常的に交流している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が「いきいきサロン」に参加したりして事業所の内容や認知症への理解を深めてもらえるよう日々努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議は二カ月に一回毎に実施。 ・内容の記録はしっかり取って月1回の合同カンファレンスで全職員に報告し、意見が反映できるように努めている。 ・外部評価の結果も発信している。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営者は機会を作り本庁や総合支所に外向き相談を行い連携を取っている。 ・管理者は日常業務に従事している為、時間的に困難でできていない。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員は理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・常日頃から話し合いを持ち虐待に繋がる事がないように注意を払い防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに話し合い、入居時必ず家族に対しても説明や情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、十分な説明を行い理解していた。 ・不安や疑問点を訪ね、理解していただくよう努め、納得していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の会発足に努力はしているがご家族に於いてそれぞれ諸事情がある為設立迄に至っていない。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の合同カンファレンス等を利用し職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の合同カンファレンスにも参加し、研修報告も聞いている。社会保険労務士にも介入していただき、勤務時間、賃金等も管理していただいている。又、有休等も必要な時は取れるように人員は多めに配置している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員を増やす事で研修等に交代で参加していただいたり、興味を持った勉強会には積極的に参加していただいている。又、カンファレンス時には研修報告の場を設け、全職員に介護の知識の向上を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや協力医療機関の計らいで、他事業者総合訪問や意見交換等の場を設けてもらっている。又、管理者や職員にはグループホーム連絡協議会にも参加していただき質の向上を目指している。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人、家族の不安な事、困っている事、要望等を聞くよう努力はしている。なかなか本人の希望等を引き出すには至らないので入居後1～2週間は毎日行動記録し職員との連携を取りミーティング等で出し合い、統一対応を行い本人に一番良い方法を見出すよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や6カ月の担当者会議時、必ず意見を求め要望等を引き出す努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが積極的に取り組み、家族の意見、要望を聞く努力をし、管理者や担当者へ相談し、支援を見極めサービスに繋げる努力をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者と言った壁を作らず家族のような関係を築く努力と利用者一人一人の能力を見出し「団子作り」「洗濯物たたみ」「盛り付け」「新聞紙たたみ」等して頂き感謝の意を伝え共に暮らしているという関係を築く努力をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日々の様子等を話し安心と絆を維持できる様支援している。又、利用者の変化に気づき、面会の要請し共に本人を支えていく関係を築いている。(本人も喜ばれすぐに元気になっている。)しかし家族によっては連絡しても喜ばれない家族もおられ皆、同じではない。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人への声掛けは機会ある毎に行っているが年々難しくなっている。ドライブを兼ねて故郷訪問も行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係を見極め関わりやすい雰囲気づくりに配慮する事で支援に繋げている。			

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とされる家族に対してはできる限り支援するよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議時に希望、意向の把握を行っている。困難な場合、本人の残存能力等を勘案しサービスの提供を行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に今までの暮らしぶりの把握を行いなるべく今まで通りの暮らし方をして頂く為に起床時間、食事、レクリエーション参加等は本人に職員が合わせて過ごしていただいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、ケアプランによる一人一人の状態を記録し把握に努めている。又、職員の引き継ぎノートを毎日チェックし、心身状態の把握に努め状態変化時は看護師に連携を取っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度担当者会議、月に一度モニタリング、月に一度全職員によるカンファレンス等を行い、ケアの在り方、現状把握に努め介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに基づいた援助記録を行い月に2～3回はプラン通りに行われているか実践状況を把握し職員間で情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に大きな問題はない。認知症の方は帰宅願望が強いがその時、その時の対応の方法で落ち着かれている為今のところは既存のサービスで良い。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月1回の紙芝居ボランティア、年1回の保育園児の訪問。 ・1、2カ月のドライブ(馴染みの地域、堀切峠、あじさい公園) ・夕涼み会時、踊り、歌のボランティア			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人および家族の希望を重視し、納得が得られたかかりつけ医がある。かかりつけ医と事業所との関係は良く気軽に相談できている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々利用者の情報や気づきを職員間で共有し、看護師へ早急に相談等をし適切な受診、看護を受けられるように支援している。 ・月1回の訪問診察に於いて医師への相談もさせていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関やかかり医との連絡を密にし、面会に行き利用者や家族との関係を維持できるよう努力している。 ・常日頃より協力医療機関との関係は良い状態で維持できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時、急変や終末期について家族に十分な説明はしている。特に終末期に於いて苑の方針を説明した上で理解を得るように努めている。 ※入所案内にの記載している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的には行っていないが基本マニュアルは作成している。不定期ではあるが研修や講習会への参加、月1回の合同カンファレンスに於いて全職員に報告、勉強会を実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災、災害訓練年2回実施(消防局の職員の指導元で) ・火災時は消防局との直通連絡ができる。 ・火災や災害時は地域や消防団への協力依頼を日頃よりおこなっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりにあった言葉かけを行いプライバシーを損ねないように努力し対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・できる限り寄り添うように努力し、本人の思いつきや希望を引き出せるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのプランに添える様に支援しているが、午前中は健康維持とレクリエーション（ボール遊び、輪投げ、バタールゴルフ）唄、外気浴、苑庭や廊下での歩行運動をして頂いている。・午後は自由にDVDを見ていただいたり自室で過ごしてもらったりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみに気を配る方は少ない。 ・その季節にそぐわない服装をされている時等さりげなく声掛けし準備したり、洋服選びの手伝いを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・可能な限り一人ひとりの好み取り入れる努力をし、四季折々の食材を取り入れ料理に提供するように努めている。 ・利用者の力を活かして盛り付け、食材の下ごしらえなどして頂き一緒に準備や食事をしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに配慮し献立をたてている。 ・季節の食材を使用する事で季節感を味わっていただき喜んでもらっている。 ・毎食、摂取量のチェックを記録し一人ひとりの状態の把握に繋げ水分確保に努め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアの声掛け、見守り、必要に応じて介助し清潔保持を行っている。 ・義歯消毒1回/w(月)利用者によって毎日して頂いている。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(Ｂ棟)

自己	外部	項 目	自己評価	Ｂ棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄パターン、習慣も活かした介助を行い失敗やおむつ使用量を減らす努力をしている。 ・可能な限りトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘がちな利用者には早朝の冷水提供したり、かかりつけ医師より緩下剤等の処方をしていただいている。食材への配慮、おやつ時の食物の配慮。午前中は適宜な運動の声掛けし実施。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴、隔日(4名、5名に分けて)午後より入浴。 ・一人ひとりの入浴支援でプライバシー保持。 ・時折、夜間入浴への問いかけを行う事もあるが現在希望される方はおられない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・10時のお茶後、日常生活のメリハリをつける目的と健康維持の為にリハビリ体操、下腿挙上運動、歌、外気浴、散歩、苑庭や廊下での歩行運動実施。 ・天候によってはボール遊び、パターゴルフをして頂き体を動かす事で安眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの薬について理解する努力と服薬時は最新の注意を払い誤薬等がないように努めている。服薬後は状態観察を怠らないよう努力、支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりにあった役割をプランにあげ、少しでも生き甲斐に繋げる支援している。(テーブル拭き、洗濯物たたみ、干し、新聞紙畳み、エプロン畳み) ・週2、3回は職員と一緒にトランプ(ばば抜き)折り紙をしたりして気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・一人ひとりのその日の希望に添っては出かけられる支援はできないが、1、2カ月に一度のドライブを事務長、事務職員の協力を得て実施しており、少しでも外の空気に触れていただける様支援している。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・普段はほとんどお金を使われない。 ・紅葉狩りやドライブに出かけた際500円程度の買い物をして頂くよう支援している。 ・全くお金に関心のない方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話はいつでも希望があれば対応している。 ・手紙に関しては現在関心をもたれている方がいない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	:ホールは畳みの間、ソファ、TV、CDラジカセを置いて居心地良く過ごして頂くよう配慮している。 ・利用者の意向によりCDを流したり、水戸黄門(DVD)を観ていただいたりしている。 ・室内には空気清浄機(加湿付き)を設置。天気が良い日は窓を開け自然の空気を取り込むようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う方同士で過ごせるように席への配慮 閉眼が多い方に対してはトランプ遊びに誘って引く事の出来ない方には職員が介助しながら参加してもらっている。 ソファや畳みで自由に過ごして頂ける様声かけをしたり誘導等している。 ・自室で殆ど過ごす方がいるが少しでも皆さんと接触して頂く様、声掛けを行い誘い共有できるよう努力している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者によっては椅子、TV、収納ケース等を持ち込まれて居心地良くされているが持ち込みのない方もおられその方の家族には担当者会議等で常に声掛けはしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・要所要所に手すりを設置、居室の柱には安全カバーを付け、トイレには起立バー、手すりの設置。 ・バリアフリーで転倒防止。 ・夜間はセンサー照明の設置で転倒防止、安全への工夫。 ・各居室に洗面台設置されており、いつでも自由に使ってもらっている。			